

大阪大学図書館報

Vol. 8, No. 1, April, 1974

図書館長の椅子にすわって想う

高 田 馨

守谷前館長のあとの館長として、はからずも私のような拙い人間が選出され任命されました。「確固たる信念をもたず、右顧左べんし、小心にしてつねに兢兢たり。」というのが自己診断書であります。それに、ここ数年間の環境激動により私は非常にシニカルになり自己嫌悪におちいることしばしばであります。はたして図書館長の重責に耐えおおせるか、自信はありません。頼りの綱はただ一本、関係各位のご指導、ご支援、ご協力だけあります。

この館報になにか書くようにとの編集子の要請を断りきれず、図書館長の椅子にすわってから3ヶ月の感想の一端をしたためたいとおもいます。

図書館長は現場監督者

部局長や評議員になると、「国家公務員法第108条の2……に規定する管理職員等となった。」という辞令が届けられます。さて、図書館長はどのような性格の管理者でしょうか。大阪大学附属図書館規程の第6条につきのように書いてあります。「館長は総長の命を受け館務を掌理し、所属職員を監督する。」。また、第7条には、「附属図書館の運営に関する重要事項を審議するために、大阪大学図書館委員会を置く。」とあります。こうして、館長は、総長の命を受け、かつ、重要事項については、図書館委員会の承認をえて働らく現場監督者という性格をもっているといつてよろしいようであります。

図書館は文化の母体

館長が「館務を掌理」し現場監督者の仕事をするとき、よりどころとなるのは、図書館の使命・目的であります。それは、大阪大学附属図書館規程の第1条に明記されています。すなわち、「大阪大学附属図書館は、図書（参考資料を含む。）を蒐集管理し、本学教職員並びに学生の利用に供するを目的とする。」とあります。

「良書は香料を施して蔵すべき秘宝である。」と誰かがいったように記憶します。わが図書館には「香料を施す」ほどのカネはありませんが、せめて防虫剤を施し湿度に注意し紛失しないよう保存する責任があるでしょう。また、「秘宝」は「利用に供する」ことが大切です。〈十年図書を蔵するは一日これを用いんがためなり〉ともいえましょう。一見不用の図書もよく蔵しておかねばなりません。利用者には迅速正確にサービスしなければなりません。

図書館を利用して成長した学者も実業人も必ず死んで幽界に去ります。「死と税は必然である。」しかし、図書館の蔵書は永遠に明界に残ります。没意思のうちにこの明界に放り出された人間が図書館を利用して成長し、先人の築いた文化・文明にながしかの貢献を加えてやがてまた没意思のうちに幽界につれ去られます。図書館は次第に蓄積される人間の理想と

知恵を保存し、流れゆく人間に利用されます。図書館はつねに明界にあって文化・文明を育てる永遠の母体（metro-organization, metro=uterus=womb）といえるでしょう。そして、人間は母の有難さを知るのには父や母になってからといわれます。図書館を利用しているときは、その偉大な母性に気がつかない人が多いようです。図書館はまさしく「縁の下の力持」といってよいでしょう。黙々としてその分担任務に精励する図書館職員の姿をみるたびに、そう痛感するのです。

図書館は他力本願

研究や教育には世人一般からみると贅沢というほどの巨額のカネが必要です。しかし、「文化国家日本」にふさわしいほどの文教予算は組まれていません。本部・各学部・各研究所は乏しい予算の枠内で苦しいやりくりをしています。そして、図書館はその乏しい予算のなかから割愛してもらっています。残念ながら、図書館は予算的に独立の部局ではなく、まったく他力本願であります。今後とも図書館に対して強いご支援をお願いすること切なるものがあります。総長、各部局長、評議員、分館長、図書館委員会委員の諸先生、本部事務局の各位、職組の各位、学内諸団体の皆さんのご指導、ご支援、ご協力を重ねてお願いする次第であります。（昭和49年3月3日記）

学生希望図書（受入済）

労働と管理の経済理論 角谷 登志雄 (青木書店)	アルキメデスは手を汚さない 小峰 元 (講談社)
経営経済学総論 上林 貞治郎 編 (ミネルヴァ書房)	ぐうたら愛情学 遠藤 周作 (講談社)
西洋演劇史 菅原 太郎 (演劇出版社)	歴史と文明の旅 (上)、(下) 小松 左京 (文芸春秋)
経営学総論 醍醐 作三 他 (中央経済社)	サルトル全集 1-3巻 サルトル 佐藤 朔 訳(人文書院)
日本思想の源流 小田林 寅二郎 (日本教文社)	映画だけしか頭になかった 植草 甚一 (晶文社)
歴代天皇の御歌 小田林 寅二郎 (日本教文社)	神経、筋、シナプス Bernard kate 佐藤 昌康 監訳
ぐうたら人間学 遠藤 周作 (講談社)	(医歯薬出版)
	カタストロフィー理論 野口 広 (講談社)

教官著作寄贈図書

—本 館—

岸畑 豊 (文・教授)
ポップス哲学の諸問題 岸畑 豊 著
(創文社 昭49)

—基礎工学部図書室—

難波 進 (基工・教授)
レーザ加工 (工業技術ライブラリー、35)
(日刊工業新聞社 昭47)

——吹田分館——

庄野利之 (工・教授)

大気汚染の測定 W. Leithe 著

新良宏一郎、庄野利之、増田 勲 共

訳 (化学同人 昭38)

本館受入参考図書

昭和49年2月から3月までに受入済み
のもの

図書刊行会出版目録 (図書刊行会)

古今要覧稿 (第1~6巻) ()

海外市場白書'73 (日本貿易振興会)

犯罪白書'73 (大蔵省)

公害とその防止技術'73
(通産技術資料調査会)

韓国年鑑'73 (日韓経済新聞社)

ユネスコ関係条約・勸告集
(日本ユネスコ国内委員会)部落問題・水平運動資料集成 (第1巻)
(三一書房)

American Authors and Books.

Burke, W. S. 他

図説国民栄養の主なる統計 (第一出版)

《参考業務雑感》

脇 島 修

私は物理の大学院生であるが、物理に関するもの、それもほんの一分野しか知らない。それをレファレンス係というのは、おこがましいことと思う。自分自身こう思いながら、一年間やってみて、かなり勉強になった。自分が、いかに物を知らないかということを知った次第である。知らないなりに、お答えした質問を御紹介しよう。生物、それも神経生理に関するものだが、

“ヒューベルとウィゼルの最近の研究で「垂直とか水平とかいう図形のパターンを見る時、それに対応して常に大脳中枢の特定の神経の興奮をみる。」というものがあるが、その出典は?”という質問であった。私にとっては知るすべもない。ところが、この分野は生物、しかも神経生理である。そこで、思い出したのが、生物物理を専攻する友達であった。さっそく彼に、ヒューベル、ウィゼルを知っているかどうか尋ねたら、すぐ答が返ってきた。彼にとっては、雑作もないことであった。私は、質問者と彼とのメッセンジャー役を務めたわけである。これが私の初仕事であった。

このように、問題がすぐ解決したのは、専攻が生物、その著者がヒューベル等とはっきりしていたためである。相談を受ける側にとって、著者名、著書名いずれかがわかっているならば、単行本なら総合目録を調べたりして、早く返答できるわけである。また、文献等である場合、その専攻分野がはっきりしていれば、上記の通り探しやすい。

こんな質問もあった。

“微分方程式がわからない。”というのである。このような場合は、教師に早変わりした次第である。文献探しのみならず、一般教養に関するものでも、簡単な質問でも結構なわけである。レファレンス、御存知だと思うが、参考という意味である。論文の一番最後に載っているのもこういう。名前は、読書相談であるが、図書館利用者のために参考になるという風に理解していただければよい。私のやっているのは、皆が気嫌いする物理である。高校時代、物理と聞いただけでぞっとするという方もおられたらう。それで、物理に関する質問も少なかったのだろうか?、物理に限らず、人生相談も結構、肩苦しく考えず、大いに利用していただきたい。

(理学部修士課程 物理)

《 図書館での「おしゃべり」について 》

千 藤 洋 三

少年老い易く学成り難し あっという間に6年の歳月が流れ、いよいよ懐しき大阪大学に別れを告げる日がやってきた。とりわけ私にとって、阪大図書館との別れは誠に一抹の寂しさを感じるものがある。大学一年の暮、この図書館で一枚の紙に「スケートへ行きませんか」と書いてデートを申し込んだはずかしいような思い出や、誰も居ない館内の薄暗い夜の冷たさの中に、初めて父の死を味わった何ともいえないほどの寂寥感など悲喜こもごもとした出来事の中であって、勉学に夢を託してきた私には、図書館はいわば恋人のようなものであった。夜7時迄勉強した後帰寮する時の満足感（もっとも府立中之島図書館は9時迄なので、ちょっぴり不満ではあったが）何物にもかえがたいものがあった。ところで、図書館を利用して何よりも気になる事は、他人の話し声（人間とは都合のよいもので、自分の声は気にならないように出来ているようだ。）である。そこで、一つ図書館でのおしゃべりについて書いてみようと思う。まず二人だけでしゃべる場合（一人で、しゃべる人もまれにはいるが）と三人以上（多くの場合は、4～5人である）の場合に分けられるが、その各々の場合に、それぞれ男だけ、女だけ、男・女混成の三形態が考えられる。そして、話しの内容としては、大きく分けて、イ. 世間話し（旅行とか人生論・恋愛論などを含む）ロ. クラブ、ハ. 勉強の三つに分類されようか。従ってその組み合わせは、8通りあり、その各々の場合について全てを述べる訳にはいかないので主に気の付いた点について私の率直な意見を述べてみる。

二人の場合で最も静かにしゃべるのは、女同志で、単に図書館を待ち合わせに利用する場合である。この時は、相手を待っている間、好きな本も読めるし、勉強も出来いわば最も効果的？に利用できるし、周囲の人も、相手が現われると、さっと出て行かれるので、さして気にもならない。世間話しも声が低いし、クラブの話しや勉強しながらのおしゃべりも迷惑となるものではない。これに比して、男同志の場合は声のボリュームも高く、それが勉強の話しになると、割と男性の本質上熱中するのか声も高く周囲に迷惑となる。まだ世間話しの方が小さいボリュームである。二人の混成、いわゆるアベックは、気になる人には大いに気になって迷惑至極である。しかし、本来静かにしなければならぬ館内で、ヒソヒソとお互いの顔を見合わせながら、時々、間を置いた沈黙を保ちつつ語り合うのは、実に楽しいものであろう。だが、それを聞かされている（聞きたくもないのに？）孤独な勉強家は、じつと我慢しているのである。最近特に増加したのはアベックで勉強する場合である。勉強しようという殊勝な心がけは感心できるものの、その勉学態度には応々にして精神の抜けた甘さのみチラつくのは何と解し得ようか。だが何をさておいても、最も耐えがたくうるさい場合は、男子同志の世間話しである。意識してか無意識のうちにか知らないが、実に大きい声でしゃべってくれる。本人達は誠に御機嫌そのものである。それだけに注意するのも気がひけるが、概して時間も長く何の為に図書館に来ているのか疑いたくもなる。その他、ノリとはさみを持ち込んで、べちゃくちゃとおしゃべりしながら男女混成でクラブに使用するグラフなどを作っておられる学生諸君等もしばしば目に付く。その他色々な利用方法が存在しているが、一つの提案として、昔日のような哲学的零囲気の中で、静かに勉強するという部屋以外に、館内の一室は、はっきりと共同勉強室とでもした方がよいのではないだろうか。とりわけ理科系の学生が多いこの大学では、統計資料等、友人同志でグループ勉強をする場合も多いからである。勿論、図書館の方々の努力により新館にラウンジ・コーナーが設けられ、二階にも談話する場所が設けられもし、それなりの改善ははかられつつあるが。いずれにし

でも多くの学生が図書館を生活の憩の場ともしうよう、現実にマッチした改善がもっては
 かれる事を希ってやまない。本来の静寂さの中での勉学と共に。

(法学部修士課程)

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

——図書館委員会——

49. 3. 12(火) 14:00~15:30 本館会議室

1. 図書館事業費要求書について原案どおり了承された。
2. 図書館運営費の部局分担金についての基本方針は、昭和48年度方式を踏襲することとなった。
3. 吹田地区への移転関連部局の図書館の編成について経過報告が行なわれた。
4. 湯川記念室の移転について図書館運営の重要事項に属することについては、図書館委員会に諮ることとなった。
5. 理学部、基礎工学部分室については、本館と両分室の関係の在り方、とくに、整理事務等について、館長と関連部局図書委員とで検討することとなった。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

- 1月28日(月) 近畿地区国公立大学図書館協議会 企画委員会
(京都大学附属図書館)
- 2月13日(水) 近畿地区国公立大学図書館協議会 図書館業務の機械化に関する委員会
(本年度第4回,本館)
- 2月14日(木) 国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会
(国立国会図書館)
- 2月26日(火) 近畿地区国公立大学図書館協議会 参考図書に関する委員会
(京都教育大学附属図書館)
- 3月13日(水) 国立大学図書館協議会 常務理事会
(昭和48年度第3回,本館)
- 3月18日(月) 近畿地区国公立大学図書館協議会 図書館統計に関する委員会
(京都大学附属図書館)
- 3月25日(月) 近畿地区国公立大学図書館協議会 企画委員会
(奈良県立医科大学附属図書館)
- 3月28日(木) 近畿地区国公立大学図書館協議会 図書館施設に関する研究集会
(同志社大学図書館)

人事

来訪者

- 1月30日(水) 池田正一 (三重大学附属図書館事務長)
- 2月14日(木) 長野 昭 (東京都立中央図書館) ほか1名
- 2月15日(金) 中田守夫 (茨城大学経理部長) ほか2名
- 2月18日(月) 藤井和夫 (東京工業大学附属図書館事務部長)
- 2月19日(火) 黒住 武 (東京大学附属図書館閲覧課長) ほか1名
- 2月25日(月) 唐沢典雄 (工業技術院図書館長) ほか2名
- 3月13日(水) 国立大学図書館協議会常務理事会出席者
今井 功 (東京大学附属図書館長) ほか11名
- 3月15日(金) 沢辺 弘 (日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所情報特許部研究情報部門
調査役) ほか1名
- 〃 桜井宣隆 (図書館短期大学教授) ほか1名
- 3月18日(月) 玉木卓郎 (東京教育大学附属図書館閲覧課長) ほか1名
- 3月19日(火) John Francis Leddy (ウインザー大学学長)
- 3月22日(金) Jacques Royen (OECD-NEA職員) ほか1名
- 〃 守谷安知 (国立科学博物館図書課長)
- 3月28日(木) 桑内 茂 (徳島大学附属図書館運用係長)

職員の異動

採用	事務補佐員	田原 良子	49. 2. 12付	閲覧課閲覧第一掛
〃	〃	竹山 敦子	49. 2. 20付	整理課目録掛
配置換	整理課 目録掛和書主任	森 三枝子	49. 2. 5付	閲覧課閲覧第一掛出納主任
〃	文部事務官	藤田 洋子	〃	整理課目録掛
〃	〃	藤川 俊三	〃	閲覧課閲覧第一掛
辞職	閲覧課閲覧第一 掛出納主任	篠田 恭子		